

質疑応答交わし理解深化へ

福井県コンクリート診断士会 技術交流会開く ①

第 95 回

会員による診断事例の発表4人目は、サンワコンの定氏が務めた。完成後50年が経過する土質遮水壁型ロックフィルダムを取り上げ、洪水吐きコンクリートと冬期連絡通路の変状の進行性と健全性を点検した経験を紹介。近接目視が絶対的なため作業で辛かった点を率直に話しかけた。

福井宇部生コンクリート

日光産業の増永氏は、施工会社はコンクリート構造物の補修・

補強工事を請負い、施工する。一方診断士は構造体のコンクリートについて劣化の程度を診断

断グループの青山氏

補修、耐震補強に取り組んでいくとした。

し、維持管理の提案をすること再確認。その上で断面修復工のはつり方法について「はつり深さはどこまで？」と質問を投げかけ、一緒に考えた。

は、ドローンを用いた打診法による浮きの確認などを紹介。効率性と信頼性を高める観点から、人手を補完する調査ロボットが必要と見込み、調査・診断や

サンワコンの定論氏 ダム施設の点検調査事例



洪水吐きコンクリートの主な劣化原因は凍害。対策として側壁面への水分の供給を抑制することが第一。31年経過の冬期連絡通路は全体的に漏水があるため、冬季に凍結しないよう止水することが望ましい。



福井宇部生コンクリートの細田尚孝氏
高強度コンクリート(大臣認定品)の適用事例

普通コンクリートと別次元の工事管理・品質管理を。生コンクリート製造業者の技術能力を要チェック。コンクリート主任技士が何人常駐しているかがカギを握る。



日光産業の増永知明氏 施工会社とコンクリート診断士

現場施工ではコンクリートの腐食状態はもとより施工条件や気象条件が絶対に異なるもの。幅広い知識と視野を持ち、創意工夫して現場施工を。現場に学び、現場に還元するをモットーとして。



コンステックの青山宏昭氏 打診法、赤外線サーモグラフィ法から

構造物の劣化が進展し、維持管理が不可欠となっている現在、マンションなどのタイル浮きや剥離調査の現状を踏まえ、人手を補完する調査用ロボットの普及・拡大に努めたい。